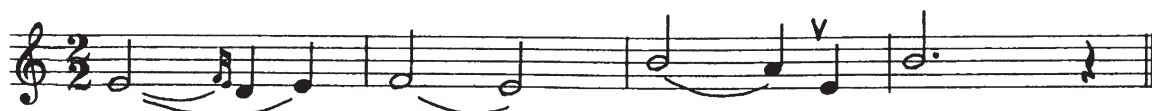


第二十四番 大本山金戒光明寺の御詠歌 (摂心調)

(池の水の御詠歌)

$\text{♩} = 40$

松 濤 基 作曲



○ × ○ × ○ × ○ ×
〔詠頭〕 い — — け ェ の — み ず



○ × ○ × ○ × ○ × ○ ×
〔齊唱〕 ひ — と の こ — — こ — ろ ぉ —



○ × ○ × × ○ × ×
に — にたりけり — — にたりけり



○ × × × ○ × × ×
に — — ご り す む — こ と —



第二十四番 山城の国 大本山金戒光明寺

池の水 人の心に 似たりけり 濁り澄むこと 定めなければ
(法然上人御作)

法然上人は浄土開宗の後、比叡山の黒谷の別所を降り白川の禅房に住まいされました。上人の師の叡空上人よりゆずり受けられ、教化の道場とされた所であります。後、黒谷別所を移したので、新黒谷ともいいます。後年、寺観が整い金戒光明寺と呼ばれました。ここには法然上人の御真筆の『一枚起請文』が残されています。

大意 庭の池の水をつくづく眺めていると、時には澄み、時には濁っています。人の心もそれに似ていて、信仰の喜びに包まれているかと思えば、次の瞬間には煩惱の心がわきおこってきます。何とも心もとないことですが、このような私であればこそ、ただ阿弥陀さまの本願力を頼み、お念仏申しましょう。

ポイント注意

- 2拍子。したがって「い」が強声、「一一」が弱声。
- 「にたりけり」の「にた」の強声を強調します。